

# ふれ愛

富士根南地区社会福祉協議会  
10周年記念誌



## 富士根南地区社会福祉協議会のシンボルマーク

10周年記念誌を発行するにあたり、富士宮東高等学校芸術コースの3年生20名の皆さまにシンボルマークを制作して頂きました。

平成28年10月23日の記念式典会場で投票が行われ、渋谷朱里さんの作品が選ばれました。



静岡県立富士宮東高等学校  
芸術コース3年

渋谷朱里

【シンボルマークの主旨】

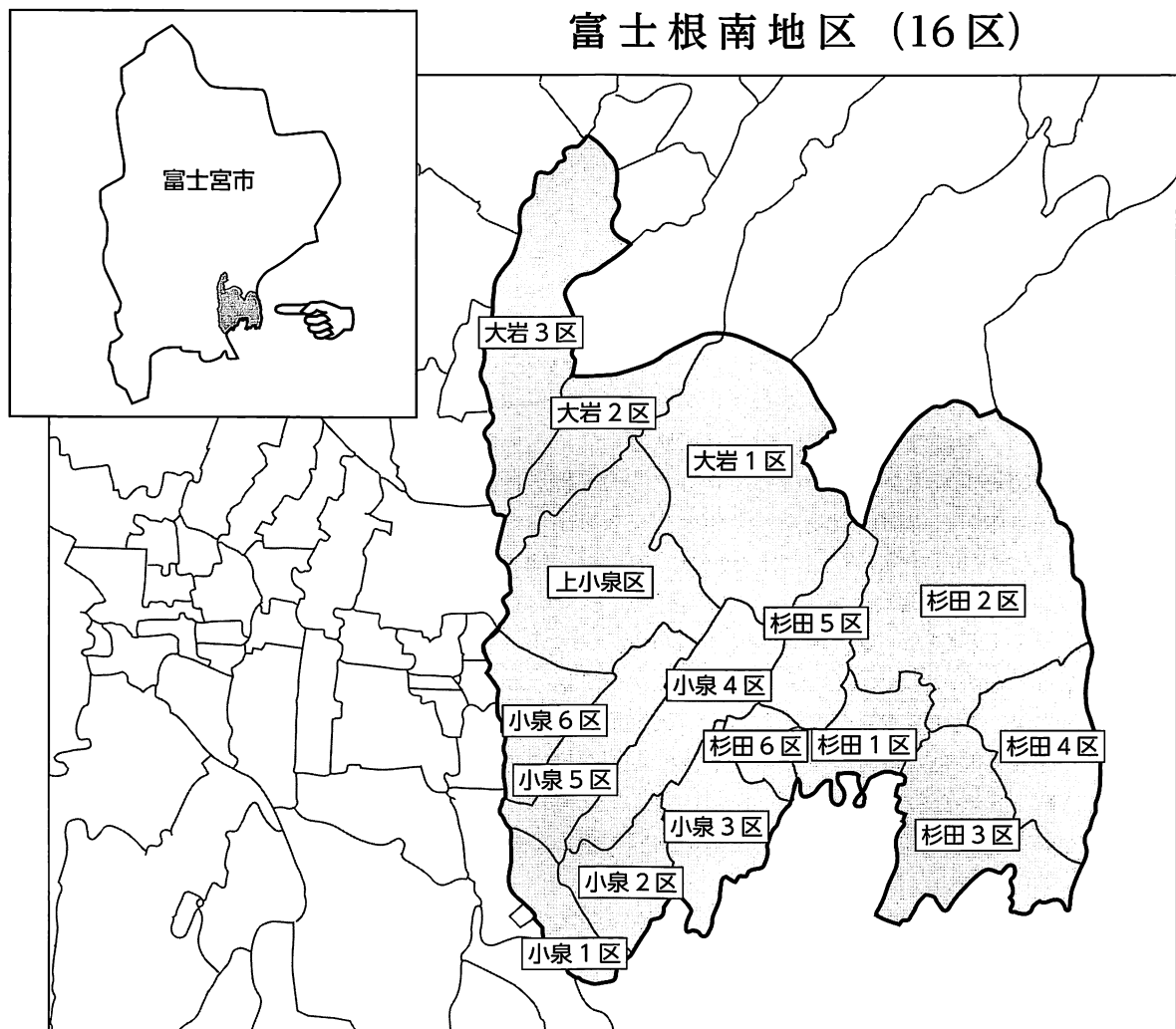
人と人が支え合う「人」という文字と地元の富士山の形を基にこのシンボルマークを制作しました。色は富士山らしい水色、ハートは「愛」を意味しています。

# 基本目標

## 人にやさしい福祉のまちづくり

ふれあい、支えあい、学びあい

- 1 地域福祉の基盤となる住民どうしの交流、つながりを深めるため「ふれあい（相互理解）」を進める。
- 2 福祉を必要とする人たちを住民どうしで「支えあい（相互支援）」を強くする。
- 3 地域に存在する福祉課題・問題について「学びあい（相互学習）」その解決に努める。



## 10周年に寄せて

会長

川原崎 仁



富士根南地区社協が今年で創立 10 周年を迎えます。この節目に記念誌を発行するにあたり、ご挨拶申し上げます。

平成 18 年 7 月、富士根南地区社協は、区長、民生・児童委員等の皆様を中心に協議を重ね発足いたしました。富士根南中学校区を範囲とし行政区 16 区、市内では後発の地区社会福祉協議会として誕生しました。当時の関係者はまず、地域の人に地区社協を知ってもらおうと住民どうしのふれあい交流をテーマにした活動から始めました。その後ふれあい交流だけでは、地域福祉の理解が進まないということで、平成 21 年度に地域で気付きやすい住民に寄り添い、見守り、支えあう活動である「小地域福祉ネットワーク活動」が提案されました。

平成 22 年、富士根南地区社協会長に就任と同時に、富士宮市社協と静岡県長寿政策局から、小地域福祉ネットワーク活動を具体的に推進する「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」のモデル地区の指定を受け、初年度は見守りネットワークの仕組づくり、次年度は各区で実践活動を展開し、その後も活動を継続するという大変難しい事業を担うことになりました。

まず、富士根南地区の小地域福祉ネットワーク活動を推進するための「プロジェクトチーム」を立ち上げ、富士宮市社協から提示された小地域福祉ネットワーク活動の手引書を図式化し、実施する項目と進捗状況を把握する工程表を作成しました。協議を重ねていく過程で、民生・児童委員の負担軽減策として、各区に福祉推進組織（区福祉部、福祉の会等）を作り、小地域福祉ネットワーク活動を推進することとしました。見守り対象者については、各区で把握している災害時要援護者から調査し同意を得て登録いただき、見守り活動に取り組むこととしました。（その後は登録していない気付きやすい人も対象としました。）活動当初は、調査や同意を得るための働きかけに大変苦労しましたが、各区役員の皆様の粘り強い働きかけにより対象者も拡大しました。

次に、各区の活動状況に関する情報交換や、スキルアップを図る「ネットワーク会議」を定期的実施しました。この会議では、地域の中で実際に起きた事例として、1 人暮らし高齢者の孤立死、認知症で徘徊を繰り返す方、他者の支援を拒むネズミ屋敷に暮らす方などの事例を検証しました。そうした事例を検証したり、実際に活動する過程の中で、専門的な支援が必要なケースも出始め、専門職に依頼することが多くなってきました。そこで、富士根南地区社協・富士宮市社協だけでなく、地域包括支援センターも加えて連携会議を毎月実施することになりました。（現在も継続しています。）

そうした実践を進める中で、富士根南地区社協から富士宮市に「地域住民だけの見守りでなく、住民の目が行き届かない部分で新聞や郵便配達等の事業所にも協力を働きかけてほしい」ことなどを提言し、結果、富士宮市と市内 17 事業所が「地域見守りあんしん事業協定」の締結をすることとなりました。さらに、実際に地域で起きている課題について情報共有や課題解決の方策を検討する「出前地域ケア会議」を企画し実施しました。こうした実践を積み重ねてきたことにより、認知症、障がい、生活困窮、難病等の状態であっても「地域から排除されることなく、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けられる地域をめざしていく」という考え方を広めていくことができました。

結びに、富士根南地区社協がこうして創立 10 周年を迎えられたのは、歴代役員の方々と、静岡福祉文化を考える会の平田厚先生、静岡福祉大学の渡邊英勝先生、富士宮市社協地域ささえあい係、地域包括支援センター、福祉相談センター富士根南等スタッフの皆様のご協力でできました。ありがとうございました。今後も引き続きご支援いただき、富士根南地区がいきいきと暮らしあえる福祉のまちに発展するよう尽力していきます。

祝 辞

富士根南地区社会福祉協議会  
設立 10 周年によせて

富士宮市社会福祉協議会  
会 長  
清 功



富士根南地区社会福祉協議会が設立 10 周年を迎えましたことを心よりお祝い申し上げます。  
また、役員・推進委員の皆様におかれましては、富士根南地区の地域福祉の推進にご尽力いただき、感謝申し上げます。

さて、富士宮市では、平成 6 年 4 月の上野地区社協の設立を始めとして、現在、市内に 14 の地区社協が組織化され、それぞれ地域の実情に沿った活動を推進しております。その中で、富士根南地区社協は平成 18 年 7 月に設立し、設立 5 年目の平成 22 年度には、富士宮市内の地区社協では先駆的な取り組みとして、小地域見守りネットワーク活動の推進に取り組んでこられました。

この小地域見守りネットワーク活動を推進するため、各区に地域福祉推進の基礎組織（区福祉部・区福祉の会等）を作り、各区に出向いて出前講座、住民懇談会、出前地域ケア会議を実施し、各区の住民理解と協力を働きかけてこられました。また、小地域見守りネットワーク活動の実践状況についての情報共有や福祉に関する基礎知識を学ぶ機会としてネットワーク会議も定期的実施されてきました。

このように、小地域福祉活動の基盤づくりの強化を進める一方で、小地域見守りネットワーク活動では、子育てに悩む親の声に耳を傾け、認知症を患う人やその家族に寄り添い、障がいのある人をやさしく見守り支え、生活に困っている人に生きる意欲を持たせようと活動されてきました。その成果として、地域の中で支援を必要とする住民をみんなで支え、地域の中に孤立を作らない、異質な存在を排除しない地域づくりを進めるといった基本的な考え方に多くの人たちのご理解いただけるようになりました。

今後も引き続き、「住み慣れた家庭や地域で、安心していきいきと暮らしあえる福祉のまちづくり」の実践が地域全体に広がるようご理解とご協力をお願い申し上げます。



## 富士根南地区社会福祉協議会 設立 10 周年記念誌お祝いの言葉

富士宮市保健福祉部  
部長

杉山 洋之



富士根南地区社会福祉協議会の設立 10 周年誠にありがとうございます。

また、今日まで地域福祉活動の推進にご尽力くださいました歴代の会長をはじめ役員、関係者の皆様に深甚なる敬意と感謝を申し上げる次第であります。

さて、これからの地域づくりの課題として、いま『地域包括ケアシステム』の構築が求められています。これは、「高齢者が住み慣れた地域でその能力に応じて自立した生活を営むことができるよう、医療・介護・介護予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制」のことだと説明されておりますが、言い換えると、「高齢者の方が自宅で暮らしていても必要に応じて医療や福祉サービスを受けることができ、地域の方に支えられながら安心して暮らせる仕組み」ということになります。

地域包括ケアシステムの理想に近づくことはなかなか大変ですが、まずは、地域にある「福祉施設等の専門的なサービス」や「地域の方々による見守りや支援」を中心に、安心して暮らせる環境を確保することが、その出発点になるものと思っております。

「福祉のまちづくり」を目指して設立された富士根南地区社会福祉協議会は、「ふれあい」「支えあい」「学びあい」を基本目標に、見守り活動や三世代交流のほか、研修、調査、広報活動など日々活発に活動されておりますが、このことは、富士根南地区の『地域包括ケアシステム』の基礎作りを進めていることにもなります。

福祉のまちづくりサポーターなど人材も豊富で、これまでの着実な取り組みにより富士根南地区は福祉活動に非常に熱心な地域だと広く認知されております。これからも「福祉のまちづくり」の実現のため、川原崎会長を中心に多くの方々が活動に参加され、地区社協の模範としてさらに進展されますようご期待申し上げます。

最後に、富士根南地区社会福祉協議会の益々のご発展と富士根南地区の皆様のご健勝を心より祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。





## 富士根南地区社協から 教えていただいたこと

静岡福祉大学  
准教授

渡 邊 英 勝



富士根南地区社協創立 10 周年おめでとうございます。

私が、富士宮市社会福祉協議会の地域福祉推進に関わらせていただいたのは、9 年前でした。その間、私自身も多くのことを学び、そして様々な方々と知り合うことができました。私にとってかけがえのない財産となっています。ありがとうございます。

私が勤めていた(旧)富士川町社会福祉協議会で新人の頃、全町 8 地区社協が発足して 1 年経ったばかりでありました。富士根南地区も発足した当時は苦労があったのではないかと思います。

発足時の苦労もさることながら、活動を継続していくことも大変なことです。にもかかわらず、この 10 年で富士根南地区社協は静岡県内でトップクラスの地区社協になりました。

その成功の秘訣は基本目標を掲げ、戦略を持って進めてきたこと、地域の福祉課題を調査分析し、ニーズを的確に把握してそれに沿った活動をしてきたこと、小地域福祉ネットワークとしてネットワーク会議、出前地域ケア会議、見守り活動等住民主体の小地域ケアシステムを構築できたことが挙げられると思います。

戦略を立て、先を読み、何より人柄と温かさ、誠実さで地区社協をまとめ、人を巻き込み、ネットワークを広げていった歴代役員の方々の努力もあったでしょう。そのスピードと活動の充実には驚きの連続です。それは、富士根南に暮らす住民の民度と感性の高さ、自分たちの住むまちをよくしたいと思う文化・気質等がその根底にあるからだと思います。

私は小地域福祉活動を進め、発展していくと「さらに小地域に細分化されその小地域が主体的に地域福祉活動を進める」という仮説を持っています。富士根南地区 16 区それぞれに主体的な活動が生まれ始めています。他の地区社協にとってもモデルとなることでしょう。

今後も富士根南地区社会福祉協議会の益々の発展をご期待申し上げます。





## 祝 辞

## 歴代会長・在任期間

勝亦健委氏	平成18年7月～平成20年3月
神尾隆典氏	平成20年4月～平成22年3月
川原崎仁氏	平成22年4月～

## 設立10周年記念誌発刊に寄せて

第二代会長

神尾隆典



この度、富士根南地区社会福祉協議会の皆様の熱意により、記念誌が発刊される運びとなりましたことを心からお祝い申し上げます。

私もこの10年の1コマに身を置いた者として当時の思いを記します。私の関わりは設立2年目からの3年間でした。この時期は全てが手探りでした。地区社協のスローガン「誰もが安心してくらせる地域づくり」を、いかに地区社協関係者と地域住民の理解を得るかでした。

ですから、ふれあい事業も必要ですが、弱者への援助事業がより重要だと思いました。それには、だれに、何を、どの様にすべきか、見える形に具体化した事業が必要だとの思いでした。

其の折、設立4年目の平成21年に市社協から「小地域福祉ネットワーク」をモデル事業としてやりたいが、根南地区社協でどうだろうかとの話があり、私は、これだと思いましたので、その後、役員会を重ねてモデル事業受諾にこぎつけました。

以後、現会長のもとで「小地域福祉ネットワーク」事業が具体的な地域住民の組織活動になり、他地区社協の注目を集めていることに敬意を表します。

最後に、記念誌発刊を契機として富士根南地区社会福祉協議会の更なる飛躍と、皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げるとともに記念誌の編集、発刊に当たられました関係者のご努力に心からの敬意と感謝を申し上げ、お祝いの言葉といたします。



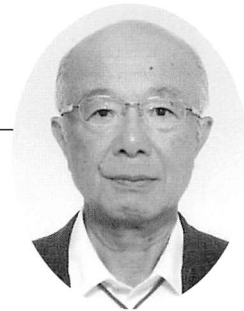
歴代企画委員長・在任期間

野村章雄氏	平成18年7月～平成20年3月
鈴木恒宏氏	平成20年4月～平成24年3月
鈴木益生氏	平成24年4月～平成25年3月
花田博氏	平成25年4月～平成27年3月
木ノ内高嘉氏	平成27年4月～

10周年によせて

第二代企画委員長

鈴木恒宏



富士根南地区社会福祉協議会設立10周年、おめでとうございます。

本協議会は、平成18年、富士宮市社会福祉協議会のご指導により、「一人でも安全・安心して暮らせる地域づくり」を目標に、富士根南地区16区が一体となり発足いたしました。

以後、「福祉は地域づくり」をスローガンに三世代交流まつり、福祉講演会、福祉だよりの発行、意識調査、富士根南小学校1年生の「むかしの遊び」などを実施、また「根ねっ子サロン」を支援し、地区住民の「ふれあい、支えあい、学びあい」の場を作り、住民の温かな連帯感の昂揚に努めてきました。

事業の実施に当たっては、大勢のボランティアの皆様にご支援を頂き、事業がいつそう有意義になりましたことを感謝申し上げます。

平成22年には、「小地域見守りネットワーク活動」に取り組みました。「一人でも安心して暮らせる地域づくり」の具現です。かつての地縁、血縁による支えあい機能が薄れる中で、住民自身が手助けを必要とする人達の存在に気づき、お互いに支えあい、身近な住民として結びついていくことの必要性が問われていました。

本協議会は、区を小地域と位置付け、区ごとに福祉推進組織を設け、区に適った本事業は、大きな反響を呼び、翌23年度中には全区で推進組織ができ、活動を開始しました。年度末には見守り希望者132名、福祉協力委員581名を数えました。関心の高さと関係者のご尽力に敬意を表します。

本協議会の重要性がいつそう高まる中で、今日を迎えられますことは、偏に歴代会長、区長、役員の方々、そして福祉協力員の皆様はじめ大勢の関係者のご尽力の賜物と、衷心よりお喜び申し上げ、祝辞に代えさせていただきます。

祝 辞

10 周年を迎えて

第四代企画委員長  
花田 博



このたび、富士根南地区社会福祉協議会が設立 10 周年を迎え、記念行事が行われますことを心からお祝い申し上げます。

本協議会は、平成 18 年 7 月、住民の皆様が、住みなれた地域で安心・安全な福祉にやさしい地域づくりをめざし、設立されました。以来、区や各種団体などの支援のもと、「ふれあい（相互理解）」、「支えあい（相互支援）」、「学びあい（相互学習）」を基本目標として各事業が実施されてきました。

各事業については、それぞれ工夫をこらし一層充実してまいりました。特に、平成 22 年から取り組んでいる「小地域福祉事業」では、高齢化、核家族化が進む中、地域の見守りネットワーク活動を実践し、安心・安全な地域づくりに取り組んでいます。これらの取り組みは全国的にも評価されています。これからも、市社協、行政などの関係機関と連携して「一人でも安心して暮らせる地域づくり」に向け、さらなる発展を期待しています。

今後、富士根南地区社会福祉協議会が、地域にとってなくてはならない存在として、ますます発展されますことを祈念して、お祝いのごことばとさせていただきます。



## 活動を振り返って！

### 設立から現在まで



設立時、区長・民生委員等と話し合いを行い、地区社協の予算を各区に分配や、ふれあい交流などの提案ができました。結局「ふもとっばら」にバスで行きふれあい交流をしてきました。



区長は、社協活動を地区の活動として理解していたが、16区全体で社協活動をするのに不安・無理がある。また、社協とは何をするのか地域に説明できないなどの意見があった。そんな時、小地域福祉ネットワーク活動が提案された。



福祉とは何か、何をしたらいいのか戸惑いがあった。



民生委員イコールなぜ福祉委員に戸惑い、理解まで重荷に感じた。事業の内容が分かるまで試行錯誤の連続、「小地域福祉ネットワーク事業」は良い活動と分かった。出前地域ケア会議は、地域の顔が見えて活性化した活動と思う。



民生・児童委員の重要性を知っているので、福祉部を民生委員が主導、顔合わせやケア会議を年数回実施している。



民生委員として、地域の福祉課題を主体に推進している。



出前地域ケア会議を該当区で実施したとき、福祉課題の設定を身近なテーマにしたので、区長からやって良かったと評価された。



富士根南支部長から、福祉事業部の予算について、各代表の考え方を部長自ら説明させてはと提案があった。



ネットワーク活動の創成期は分からないことが多くて、区長の負担を考え地区社協の会長と区長職の分離を提案した。



杉田地区は、副区長が2年福祉委員を経験するので、区長になってから支援・協力が得やすい。



#### メンバー

神尾隆典氏、野村章雄氏、鈴木恒宏氏、花田博氏、川原崎仁氏、木ノ内高嘉氏、佐久間千津子氏、齋藤富夫氏、林 孝行氏、渡邊恭二郎氏、橋村秀秋氏（市社協）



# 10年の歩み

*The history of the ten years*



10周年記念式典より



2006 年度

平成18年7月～平成19年3月

## 富士根南地区社会福祉協議会設立総会開かれる

7月11日

### 地域福祉の活動と推進を目指し

会長 勝亦健委



富士根南地区社会福祉協議会設立には、ご協力ありがとうございました。私達根南支部でも、かつての伝統的な家庭や地域住民相互のつながりが希薄化し、社会情勢も変わってきました。

こうした社会状況の中で地域住民の自主的な助け合い、住民が手を携え合って共に生きる地域福祉が求められるようになりました。

地域福祉の推進とは、個人が人として尊厳をもち、家族や地域の中で障害の有無や年齢等にかかわらず、誰もが社会参加でき、その人らしい安心のある生活が送れるよう自立支援する事です。

このことから、私達富士根南地区社会福祉協議会の目標として、

3本の柱を定め実行に向け取り組んでいきます。

- 1、地域における福祉サービスの適切な利用の推進
- 2、地域における社会福祉を目的とする事業の健全な発展
- 3、地域福祉に関する活動への住民参加の促進

以上を活動目標とし、安全で安心な地域社会の構築を図り、実現に取り組みますのでご協力をお願いします。

### 支援を必要としている人へ

企画委員長 野村章雄

平成18年度根南地区社協の事業も、各種団体の協力と多くの住民の参加により、初年度としては地域福祉活動への関心が高まったことと思います。

しかしながら、弱者への支援、核家族化の流れのなか、子育てに悩む若者達や一人暮らしの方の支援など、取り組みを深めなければならない課題が多くあります。そうした住民の声に応えていきたいと思っています。

安全で安心して暮らせる地域づくりは、住民一人一人の協力なくしては出来ません。地域の連帯を図りながら、ふれあいの輪を広げるため、根南地区社協として努力していきます。



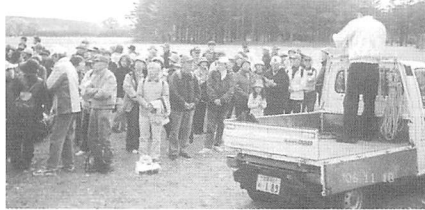
## 「三世代交流ふれあいハイキング」を実施して

# 3 歳～ 80 歳代まで世代間の交流は大成功！

三世代交流事業部

富士根南地区社会福祉協議会が7月に発足、11月に「三世代交流」を実施いたしました。皆様のご協力を頂き、各世代より大勢のご参加をいただきました。当日は天候にも恵まれてハイキング・グラウンドゴルフ・輪投げにと楽しい1日を過ごしました。

### ふれあいハイキング 11月8日(土) 朝霧高原 “ふもとっばら”にて実施 参加者 333名 (バス7台)



#### ハイキング

3コースのマップより、各自の体力に合わせたコースを選び案内係の誘導で楽しむ。

感想…意外とハードなコースを選び、挑戦しました。気持は勿論、体力に自信のある方が多く感じられました。早々と“宴会”のグループも…。(野原で飲むお酒は格別)



#### グラウンドゴルフ

15000㎡の広大な芝原にて18Hを用意。ハイキングから帰ってきた人もゲームに参加していただきました。

感想…ハイキングで疲れ、参加者があるか？心配は、無用でした。200名以上の方がチームを組んで日頃の実力を発揮！根南の「シルバー世代」は凄いパワーでした。(拍手)

#### 輪投げゲーム

幼稚園、小中学生を対象に4ヵ所で実施

地域の“お祭り”以来と目の色を変えて楽しみました。

感想…おばあちゃん、お母さん、子供さんの三世代で楽しくプレイ。ご褒美は美味しいお菓子の賞品！

## 住民意識調査について

意識調査部

No.	設 問	(%)	(%)	(%)
1	『社会福祉協議会』を知っていますか。	45.6	34.2	20.2
2	富士根南地区に『社会福祉協議会』が設立されたことを知っていますか。	33.9	52.7	13.4
3	今の近所付き合いに満足していますか。	56.0	13.0	31.0
4	地域で生活支援を必要としている人がいると思いますか。	34.6	27.4	38.0
5	あなたは身近に相談相手がありますか。	83.7	16.3	
6	地域の行事や町内活動に参加していますか。	61.2	11.9	26.9
7	あなたの地域で、世代間交流活動が行われていると思いますか。	19.5	39.6	40.9
8	現在、福祉関連のボランティアをしていますか。過去にされましたか。	13.1	74.3	12.5
9	近い将来、地域福祉のボランティアを要請されれば協力しますか。	34.6	10.2	55.2
10	あなたの地域の自治会役員や福祉活動の役員を知っていますか。	29.5	39.9	30.6

アンケート数 1740 : 回答者数 1666 : 回答率 95.7%

10年の  
歩み

2007 年度

平成19年4月～平成20年3月

## 平成 19 年度に向けて

5 月 25 日

5月25日総会を富士根南公民館に於いて、90名の参加により開催いたしました。  
18年度事業報告、収支決算、監査報告、19年度事業計画、予算が承認されました。今年度も講演会、三世代ふれあいまつり等を実施いたします。地域の皆様の力を結集し成功させたいと願っております。

### 根南社協の充実を目指して

会長 勝亦健委

社会福祉は、支援を要する人への限られたサービスだけでなく、地域住民すべての社会福祉として、支える地域社会福祉であります。

身近な生活の場である地域に関心を持ち、様々な課題を自身の事として活動するとともに、日常生活に関わりのある介護、子育て、健康作り、障害者の自立支援などを通して、地域社会に生きる一人ひとりの違いや多様性を認め合う。相互に知恵を出しあい、根南社協活動の充実を尚一層図りたいので、本年度もご協力よろしく御願い致します。

### 住民の主体的な行動を

企画委員長 野村章雄

平成18年度根南地区社協の活動に、多数の参加をいただき、心より感謝申し上げます。

2年目を迎え、地区社協の活動も、住民の積極的な取り組みにより継続されるよう望みます。

人の繋がりを一人でも多くの住民に呼びかけて、行事への参加を助けることにより、人の輪が広がっていくものです。地区社協は特定の人だけの活動ではなく、住民が積極的に参加し、安心安全な地域社会をつくることが求められています。そのためには、多くの住民にボランティアとしての参加を望みます。

### 安全環境事業部の取り組み

安全環境事業部

#### 1、子どもの見守り活動

昨年に引き続き、児童の下校時に、地域の大人がグリーンの腕章を着け子どもの見守り活動を行います。  
腕章が必要な方は、各区の区長に申請して下さい。

#### 2、バイパス地下道を明るくする運動

地域住民が、昼夜を問わず安心して通行できるように赤坂地下道(バイパス東側)を明るくしていきます。  
地域住民の皆様や、事業所・店舗等の参加・援助・募金を募るのでご協力ください。 8月実施予定

#### 3、ふれあい通学合宿

「通学合宿」とは、地域の宿泊可能な施設を拠点に、年齢の異なる子ども達が共同生活をしながら登下校するものです。今年度、県の推進事業の一環として富士根南地区でモデル事業としておこないます。  
10月4日(木)～6日(土)2泊3日 富士宮東高等学校 桜丘荘 小学校4年生～6年生

#### 4、『知ろう災害を 考えよう防災を！』

災害ボランティアコーディネーター富士宮連絡会(略称:災害VC富士宮)が主催する災害訓練に参加し、「災害に負けないまちづくり」を進めていきます。



## 講演会 社会を明るくする運動

福祉講座部



平成 19 年 7 月 1 日夜 7 時より、根南中体育館を会場として第 3 回富士根南地区区民集会を開催しました。

19 年度は白井芝川町長に「メタ・シンとリタシン、そしてジコ・チュウシン」と題してユーモアをまじえての、講演をしていただきました。

講演のあとに、“社会を明るくする運動”をテーマにした根南小・中学校児童生徒による入選作文の朗読を行いました。子どもから見た地域との関わり等、日頃のなにげない言葉の大切さを学びました。

根南中伝統文化研究部員による箏の演奏、稲葉社中の銭太鼓の踊り、最後に根南中吹奏楽部に演奏して頂きました。区民集会をお知らせするポスターの制作を、根南中美術部員のみなさんにお願ひし、各地区に掲示したところ大変好評でした。

400 名余の区民の皆さんのご参加をいただき、2 時間余りに亘る富士根地区区民集会を盛会のうちに終えることができました。皆様のご協力のお陰と深く感謝しております。



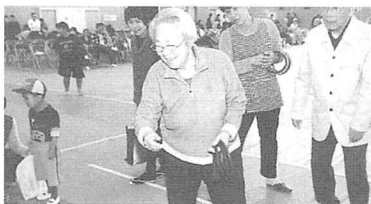
富士根南中吹奏楽



あやとり

## 三世代ふれあいまつりの様子

平成 19 年 10 月 26 日 (日) 開催



輪投げ



オペレッタ



竹馬

## 福祉活動の実績

会長 勝亦健委

19 年度富士根南地区社会福祉協議会の活動も昨年度と同様各事業部を設定実施しました。

- 1、広報誌の発行
- 2、福祉講座（講演会）
- 3、住民の意識調査
- 4、三世代ふれあい交流
- 5、子どもとふれあい安心な環境づくり

各事業部の努力と区民皆様のご協力により実施することが出来ました。紙面にて御礼申し上げます。

さて社会情勢をみますとご承知の通り少子高齢化は云うまでもなく、格差社会・地球温暖化・原油高騰と憂うべき事が数多くあります。このような社会状況の中では福祉活動が必要です。個々の力は微力ですが、地区社協を通じて諸問題に取り組み、根南社協にマッチした福祉活動を推進したいと思いますのでよろしくお願ひいたします。



2008年度

平成20年4月～平成21年3月

## 平成20年度の出発にあたり

会長 神尾 隆典

富士根南地区社会福祉協議会の歩みを見ると、平成15年度～平成17年度の3年間の準備期間を経て、平成18年・19年の2年間の正式活動を合わせて5年の歴史があります。平成20年度は、新たな出発の年と考え平成18年度の設立趣意書を再確認し本年度の進むべき方向としました。

- ・地区社会福祉協議会とは、住民の主体的な組織で、富士宮市社会福祉協議会と同じ性格を有する。したがって、市社協に参画する住民組織であり、密接な関係を持っている組織です。
- ・自治会を中心に行われているまちづくりは、住民の生活環境を改善し、地域で行われている様々な行事を活発化し、住民どうしの交流を目的にした取り組みです。
- ・地区社協の目指すまちづくりは、福祉課題を抱えるひとたちを、みんなで支え合えだれもが安心して、ともに暮らせるまちづくり、いわゆる「福祉のまちづくり」をめざす取り組みです。

### 「富士根南地区社会福祉協議会」設立趣意書

○基本方針

「富士根南地区社会福祉協議会」設立趣意書（平成18年7月11日）に、住民のみなさんが住みなれた地域で、安心・安全な福祉にやさしい地域づくりをめざし、以下に定める基本方針を示し、事業の計画策定、並びにその実行に向けて取り組むことを宣言しています。

- 1、地域における福祉サービスの適切な利用の推進
- 2、地域における社会福祉を目的とする事業の健全な発展
- 3、地域福祉に関する活動への住民参加の促進

以上の目的を達成する事業を、確実に効率よく実施する為に、根南地区社協に賛同頂いている組織・団体の皆様に、平等に役職を分担していただき、組織力を存分に発揮できる体制に会則を改めました。

平成20年度はこれらを踏まえて、各事業を行いますので各組織・団体の皆様と根南地区住民の皆様のご理解をお願い致します。

### 『一人』の存在を大切に

企画委員長 鈴木 恒宏

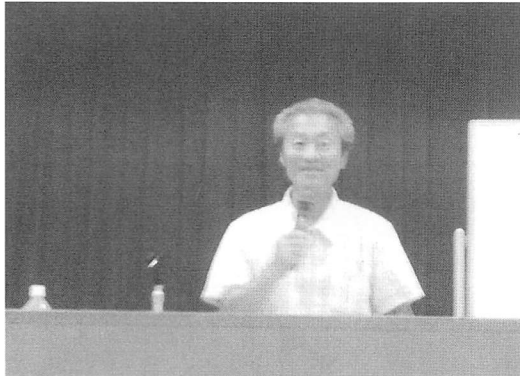
富士宮市の高齢化率は、平成18年の18.8%に対し、平成27年は24.5%という。およそ4人に1人が高齢者です。核家族化や少子化の進行を考えると、一人暮らし高齢者や福祉を必要とする人の増加が予測されます。地域福祉の必要性が叫ばれる所以です。

根南地区社協は、「福祉課題を抱える人たちをみんなで支えあう地域づくり」を目標に、まず、地域福祉の基盤となる住民どうしの交流・つながりを深め「ふれあい＝相互理解」を進め、福祉を必要とする人たちを住民どうし「支えあい＝相互支援」そして地域に存在する福祉課題について「学びあい＝相互学習」を基本に20年度の事業を計画し進めています。

みんなで参加し、自分とみんなの幸せについて考えましょう。

## 社会を明るくする運動

福祉講座部 渡辺 敏雅



第 58 回「社会を明るくする運動」の一環として、福祉講座部では、根南保護司会・更生保護女性会との共催で、去る 7 月 19 日区民集会を開催しました。当日は多数（400 名）の参加ありがとうございました。

まず最初は、塩川寿平先生の講演「21 世紀に向かって新しい家庭教育を考える」では、幼児教育の大切さをユーモアをまじえながらお話いただき、1 時間がとても短く感じられました。

続いて根南中伝統文化部の箏演奏、根南中児童生徒による作文の朗読、宮崎啓二さんのマジックショー、最後に根南中吹奏楽部の演奏で無事終わることができました。開催するに

あたり関係各位、各団体のご協力に心より感謝申し上げます。

## 「社明会」に参加しての感想

「社明会」に参加するのは、今年で 3 回目となります。目的は吹奏楽部に入った子供の演奏を聴くことでしたが、先生方のご講話や子供達の作文発表、いずれもすばらしい内容で自分も勉強させていただきました。

部発表としては毎年、伝統文化部の箏の演奏と吹奏楽部の演奏のいずれも楽しませて頂きました。中学生達が真摯に部活に取り組み、ご指導の先生方のすばらしい情熱と高い内容を感じ感謝するばかりです。

当会が発展継続しますことと、参加の輪がさらに広がるよう願ってやみません。

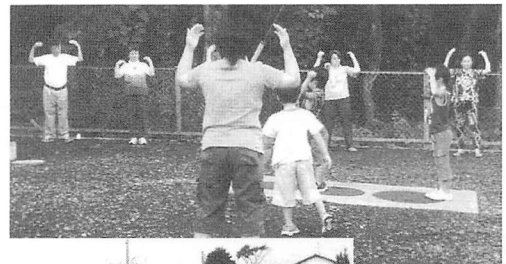


## 子供との交流部

部長 渡辺 光優

### ★ 早朝ラジオ体操を終えて

子供会による夏休みのラジオ体操に、根南地区社協として、地域住民に呼びかけましたところ、幼稚園児から、高齢者まで約 420 名の方々に、参加していただきました。子供と会話したり、出席のハンコをうれしそうにもらったり、皆勤賞などはしゃいだり、楽しい時を過ごしました。「来年も元気で出席できればいいね！」などとの声も聞かれました。皆様ご参加どうもありがとうございました。



### ★ 高齢者 慰問事業

対象者 720 名前後と決定しました。慰問品に、小学生の手紙をそえて訪問する予定です。

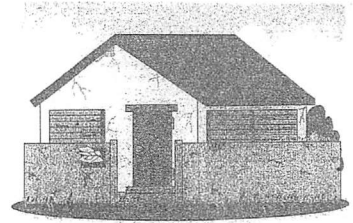


## 平成21年度 事業計画決まる

### 計画1 ご近所の見守り→暮らし・家族・身体

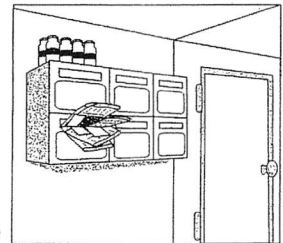
暮らし…近隣関係がない。生活環境が悪い。

ゴミがあふれている。衣類がよごれたままになっている。  
異臭がする。昼間でも雨戸が閉まったままになっている。  
しばらく顔を合わせない。新聞、郵便物がたまっている。



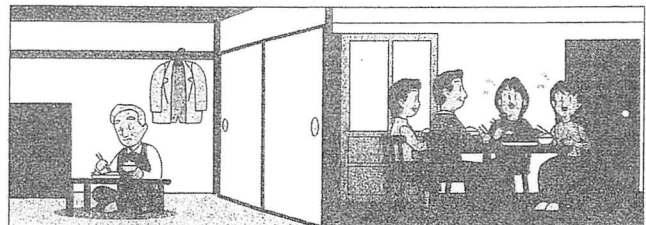
家族…高齢者世帯である。

(介護者の健康状態が悪い・性格的問題・朝からお酒を飲む。)  
息子(娘)との二人暮らし。  
(喧嘩が絶えない。高齢者への冷淡な態度をとる。)



身体…一人で歩けなくなっている。自由に外出できない。

身体に新たな障害ができた。  
顔色が悪い、体調不良がうかがえる。髪、ひげ、爪が伸びたままになっている。



### 計画2 ご近所の見守り→認知症・経済状況

認知症…少しものの忘れが目立つ。同じことを何度も繰り返す。

一人暮らしの場合、ごみの分別ができない。  
家族が認知症の介護の悩みや高齢者の変化を周囲に話す。  
深夜に出歩いている。道に迷う。  
同じものを何度も買う。  
知っている人に、初対面のあいさつをした。  
アザやけがが絶えない。徘徊で危険なめにあった。

経済状況…同じものを着ている。生活が質素になった。

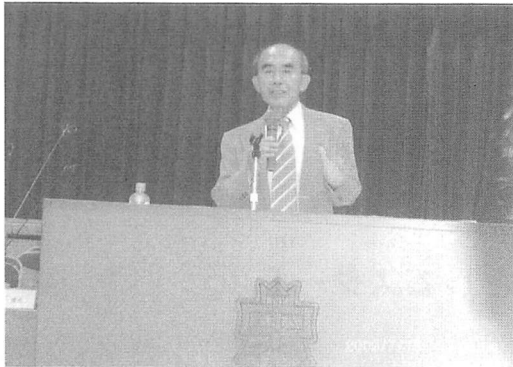
子どもが働いていない。  
小遣いを持っていない。  
年金があるのに、「お金がない」と訴える。  
必要な介護サービスを利用していない。



## 富士根南地区 区民集会

共に生きる社会を実現するために  
私達に求められているものは何か

福祉講座部



7月18日、山川忠洋様（社会福祉法人旭学園理事長）を講師に迎え、上記のテーマで講演が行われました。当日は多数（350名）の参加ありがとうございました。

日本における福祉の歴史、障害者には誰でもなりうる事、知的障害者は健常者にはない隠れた魅力がいっぱい。両親の深い愛情が大切と共に、向こう三軒両隣助け合い、福祉は空気や水のように当たりまえ、福祉の言葉を使わないですむ国にしたい。

一時間の講演を聞いて、障害者を自分の事の様に捉えることができました。

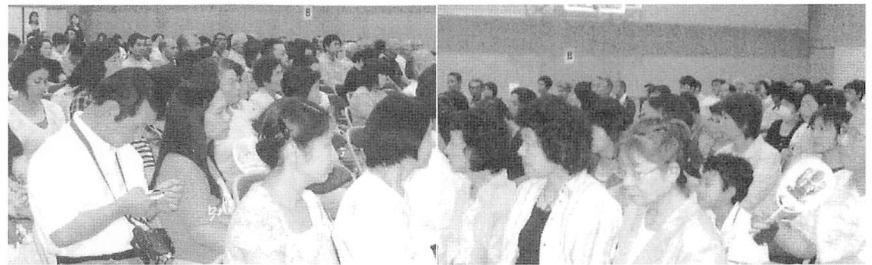
富士根南小・中学校、富士見小学校児童生徒による作文の朗読、根南中伝統文化部の箏演奏、最後に根南中吹奏楽部の演奏で無事終えることができました。開催するにあたり関係各位、各団体のご協力に心より感謝申し上げます。

### 『ボランティア』 はじめての協力の場

7月18日、富士根南中学校体育館を会場に行われた「区民集会」に初めて根南地区社協に登録されている「ボランティア」の方々（14名）に裏方役として協力していただきました。

内容・客席（椅子）の設営  
・客席の案内  
・講演時の空席案内  
・終了後のシート椅子の片付け等

18:00～21:30の長時間、積極的なご協力ありがとうございました。



### 区民集会に参加して感じたこと

- ・障害者にやさしい社会、住み良い社会は、私達にも責任があると…地域福祉にもっともっと積極的に関わらなければと、思った。
- ・あいさつは人を温かくする魔法の言葉、地域のふれあいは、「おはよう・お帰りなさい」子どもから学びました。
- ・地域の見守りのみなさんへ子どもからの感謝の言葉に感動した。
- ・本当の豊かさはお金ではなく、近所や身内を思う豊かな心、何でも相談できる大切な友人だと気付かされた。
- ・暑いのに、よく集まったと思いました。
- ・音響が悪いのか聞き取りにくく、良く聞こえなかった。
- ・吹奏楽の演奏のとき周りがさわがしかった。

### 講演会アンケート結果

参加者内訳と男女別

実施日 平成21年7月18日

	地域住民	ボランティア	区役員	社協役員	学生以下	地区外	計
参加者数	112	14	33	74	105	12	350
男	34	6	31	36	14	10	131
女	78	8	2	38	91	2	219



# 2010年度

平成22年4月～平成23年3月

## 平成 22 年度に向けて

4 月 16 日

21 年度事業報告、収支決算、監査報告、22 年度事業計画、予算が承認されました。

今年度は、新しくラジオ体操部・ボランティア部が設けられました。講演会、三世代ふれあいまつり等を実施いたします。地域の皆様の力を結集し成功させたいと願っております。

### 「小地域見守りネットワーク」のモデル地区としてスタート

会長 川原 崎 仁

地区社協は、ふれあい交流や福祉に関する学習会などを行ってきました。

今年度は、ふれあい交流とあわせて、「小地域見守りネットワーク」活動を市社協のモデル地区としてスタートします。小地域（昔の隣組）を単位に、高齢者や障害を持たれている方のお宅を、ボランティアが訪問や声かけを行う事によって、安心して暮らせる地域を目指す活動です。この活動によって、新たなつながりができ、お互い様と言える根南地区にして行きましょう。

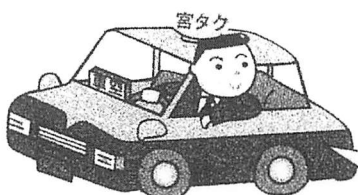


市社協会長諏訪重雄様より▶  
委嘱状交付された川原崎新会長（左）

### モデル事業地区指定

今年度富士根南地区社協では、富士宮市社協のモデル事業「小地域福祉ネットワーク活動」の推進地区として指定を受けました。

推進するに当たり高齢、障がい、その他気がかりと思われる方たちを自治会組織として、また身近な住民として見守り支え合い「ほっとする地域の温かさ」を感じる安心安全な地域づくりに、住民の皆様のご理解とご協力をお願いします。



なお、平田先生には、モデル事業「小地域福祉ネットワーク活動」のアドバイザーとして今後ご指導をいただく予定です。

## “ふれあいまつり” を終えて

三世代交流部 部長 石川 博 康

地域における結び付きが薄れてきた今日、三世代交流部では、誰もが安心安全に暮らせる地域づくりを目指し、今年も「ふれあいまつり」を実施しました。

当日は、各地区における行事と重なったこともあり心配しましたが、多くの皆様に参加をしていただき、各コーナーでは世代を超えた楽しいふれあいをしていただけたかと思えます。

又、初めての試みとして、プログラムの最後に根南中吹奏楽部の演奏をバックに、参加者全員による合唱を入れたことにより、おおいに盛り上がったなかでまつりの閉会を迎えることができました。

ご協力頂きました根南中学校を初め、関係者の皆様には厚くお礼申し上げます。

## 三世代ふれあいまつりの様子

平成 22 年 10 月 24 日（日）開催される



福祉体験



グラウンドゴルフ



花笠音頭

## 平成 22 年度を終えるにあたって —小地域ネットワーク事業について—

会長 川原 崎 仁

本年度、富士根南地区社協の諸行事に、地区の皆様のご参加をいただき感謝申し上げます。

さて地区社協は平成 18 年に発足してから、役員、推進委員、各団体の代表者、ボランティアなどで構成され各事業を展開してきました。

事業内容は、住民意識調査や、根南福祉だよりの発行、研修会・福祉講座・三世代ふれあい交流・ふれあい訪問、夏休みラジオ体操、根南小学校 1 年生対象「むかしの遊び」支援等多くの活動に取り組んでいます。こうした活動の中で「ふれあいや学びあい」に参加できない住民をどうして支えるかが、提起されてきました。地区社協のあるべき姿や方向性を模索し始めたところに、富士宮市社協の「小地域福祉ネットワーク活動」の研修を受け、住民どうしのさりげない見守りや声かけが重要である共通の理解を図ることができました。平成 22 年度から「富士宮市社会福祉協議会モデル事業地区指定」を受け、小地域ネットワーク活動の具体的な進め方について協議してきました。

事業を進めるため地区社協推進委員の選出、各区福祉委員の（区長、町内会長、民生委員）の位置づけと選出、また、各区では見守り対象者の聞き取りや、対象者の近隣の方に福祉委員をお願いしています。22 年度で準備し、23 年度から実践していきますが、活動している区も含め、13 区が活動を表明しています。このモデル事業は公助（国）の支援が財源事情等限られている中で、共助（地域、隣近所）で福祉活動が可能と捉え、富士根南地区全体で取り組んでまいりますので皆様のご支援とご協力をお願いいたします。

10年の  
歩み

2011 年度

平成23年4月～平成24年3月

## 平成23年度 事業計画決まる

### 福祉講演会

日時 平成23年7月15日(金)  
午後7:00～9:00  
場所 富士根南中学校 体育館  
講師 平田 厚先生  
(静岡福祉文化実践研究所代表)

マスコミで騒がれている「無縁社会」。私たちの地域って、本当に無縁社会なのでしょうか？

最近では、「有縁社会」の言葉まで出てきました。こうした時期に、今一度「地域を見る目を、福祉を見る目」で、じっくりと私たちの身近な地域について真剣に話し合うことが必要な時期を迎えています。

いまこそ、地域住民一人ひとりの参画による「隣組の絆」を確かめあいましょう。

福祉講座部では、富士根南地区全住民を対象に福祉講演会を実施しております。

より多くの方に聞いて頂くにはどうしたらよいか？今悩んでいます。この講演会は、今年度社協の取り組みを地域の皆様に発信する大切な事業だと思っております。まずは、来場して頂き何かを感じて、地区に帰って、すこしでも実行して頂けるとありがたいです。

講演会には、隣近所お誘い合わせの上、是非会場にお出掛けください。

福祉講座部 部長 橋口 泉

## 『ボランティア』の育成にご理解を

ボランティア部 部長 鈴木 益生

本年度も総会を経て、各事業がスタートしました。

過年度に多くの皆様方に『ボランティア』として手を挙げていただきました。集合行事にもご協力いただきましたが、多くは「裏方の雑役」ばかりで申し訳なく思っております。

本年度は、市社協や市福祉関連部署のご協力をいただき、過年度登録者や新しく手を挙げていただく皆様方に「福祉協力員養成講座」を受講していただき、「便利屋さんの仕事」だけでなく、根南地区社協の企画や事業推進にも関わっていただける『ボランティア』の育成と活動を進めてまいります。

従前以上のご理解とご協力をお願い致します。

## ふれあい訪問について

ふれあい訪問部 部長 加藤 かつ江

〔住み慣れた地域で、一人ひとりが安心して暮らせるまちづくりをめざして〕

今年度も、ふれあい訪問を計画しています。部会で十分に話し合い、よりよい訪問ができるようにしたいと思います。

＝事業内容＝（区単位の事業として行います。）

10月頃に、各区ごと、民生委員、区役員などで、小学生の手紙と慰問品を持って高齢者（82歳以上、80～81歳で一人住まいの人）宅や福祉課題を持つ要支援宅を訪問する予定です。



## 「小地域福祉ネットワーク活動」

会長 川原 崎 仁

日頃より、富士根南地区社協の活動に、ご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、22 年度から本地区社協が取り組んでいる市社協指定モデル事業「小地域福祉ネットワーク活動」について、ご報告いたします。

23 年度は、「小地域福祉ネットワーク活動」実践の年としてスタートいたしました。この間に、一人暮らしの男性の「孤独死」が 2 件発生しました。まだ若い、67 歳と 71 歳の方でした。この事例から見守りの対象を一人暮らしの高齢者の場合は 65 歳以上としました。また、2 例とも新聞が 1 週間以上溜まりながら気付かれませんでした。富士宮市地域包括支援センターと協議し、新聞販売店にも「地域の見守りネットワーク」に参加して頂けないか提案しました。市内 5 社の新聞販売店の理解が得られたので、7 月 21 日「富士宮市地域見守りあんしん事業協力に関する協定書」を富士宮市長と 5 社が締結するにいたりました。

各福祉部の全体の報告から、富士根南地区の高齢者が、家族や地域との関係が薄れて孤独を感じている事例が報告されています。見守りの福祉関係者だけでは、限界があります。これからは、近隣住民の（気配り・目配り）協力と専門・公共機関と連携を強化し、皆さまと一步一步「福祉ネットワーク」を推進していきますのでご協力をお願いします。

## ふれあい訪問を終えて

ふれあい訪問部 部長 加藤 かつ江

昨年 10 月頃、子供たちの手紙と粗品を持って高齢者のお宅を各区ごとに訪問をしました。

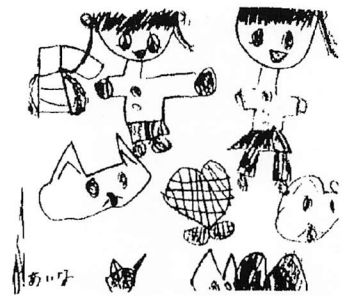
対象者人数は

- ・ 21 年度……777 人
- ・ 22 年度……824 人
- ・ 23 年度……890 人

と毎年増えております。元気で頑張っていらっしゃる人が多いようです。

また高齢者の皆様から、お手紙に対する返事をいただいたことを、子供たちもたいへん喜んでおります。

これからも温かいふれあいの輪を広げ、楽しく暮らせる地域にしたいものです。



## むかしの遊び教室

平成 24 年 1 月 24 日（金） 於：富士根南小学校  
ボランティア 105 人、1 年生 182 人が参加



あやとり



かるた



竹とんぼ



おはじき



# 2012年度

平成24年4月～平成25年3月

## ご近所福祉の事業計画

企画委員長 鈴木 益生

富士根南地区社会福祉協議会も創設から7年目を迎え、「支援事業」を含めて10の事業を展開するまでに発展しました。

高齢者や病弱者に関わる事業ばかりではなく、近年、子供との交流を図る事業にも力を入れております。地区社協事業は、けっして特定の人だけの活動ではありません。ご近所福祉を目的にした住民総参加の活動です。

明るい話題の少ない世の中です。だからこそ、みんなが少しでも知恵と力を出し合って、温かい住みよい地域をつくりたいものです。

厳しいご意見も含めて、明日につながる事業活動のために、ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。



### 友愛訪問 小泉5区

友愛訪問で地区の子供のお便りを持って来年6月に100歳を迎えるという大平義雄さん宅にうかがいました。写真を撮る……と言ったら

“この格好が何よりいちばん自分らしい”と言って野良着に地下タビをはいて待っていてくれた。

今でも毎日この格好で近くの畑に出掛ける。

“100歳まではガンバル”……と笑っていた。

〔県コミュニティづくり推進協議会〕

### コミュニティ活動賞 優良賞 富士根南地区社会福祉協議会

2012年度「コミュニティ活動賞」の優良賞に富士根南地区社協が受賞いたしました。2006年7月の発足後、さまざまな地域活動を展開しているが、特に全国的にも注目されているのが「小地域福祉ネットワーク活動」。2010年に富士宮市社協からモデル地区指定を受け、小地域福祉推進組織の構築から始まり、見守り・声かけ活動などを行いながら、地域全体で子供やお年寄りを見守る活動に発展させた。特に一人暮らしのお年寄りに対しては孤独死を減らそうと、市内の新聞店との協力体制を構築した。地区社協を中心にした先駆的取り組みや地域と行政、地域包括センターなどの協働、学習の場を継続的に作りだしていることなどが高い評価を受けた。

川原崎会長

「私たちの団体は発展途上。この受賞は、これからも頑張りなさいという意味なのでは。小地域福祉ネットワークづくりの試行錯誤が認められたことはうれしい」



▲優良賞の楯 記事は岳南朝日より抜粋

## 早朝ラジオ体操

ラジオ体操部 部長 佐野 壽雄

夏休み早朝ラジオ体操も、子供会と富士根南地区社協が協賛してから5年目になり、今年は43会場で合計1383名でした。小学生を中心に幼児から高齢者まで幅広い参加がありました。これは各区長初め、各会場にてご指導してくださいました役員ならびにボランティア、参加くださいました皆様のおかげと、感謝しております。有難うございました。根南地区全16区での実施を目指したのですが残念ながらひとつの区で実施できませんでした。区によってバラツキがありますが来年度は老人会等にも積極的に声かけをして、健康長寿地域を目指していきたいと思っております。

参加者と世代別比率

幼児	児童	父兄	高齢者	合計
144名	763名	285名	191名	1383名
10.41%	55.17%	20.61%	13.81%	昨年1354名



大岩2区 氏子神社

### ＝主催者の声＝

- ・ 杉田2区 短期間でしたが皆さんが参加してくれて嬉しかった。夏休みに入って直ぐ開始した事が良かった。
- ・ 小泉3区 実施について詳しい説明が欲しかった。カードがダブってきたのでカードが無駄になった。老人会への声かけが不足して参加者が減少した。
- ・ 大岩2区 ラジオ体操がとても楽しかった。夏休み中続けたかった。幼児から高齢者まで楽しく出来て良かった。
- ・ 大岩3区スマイル 子供だけの活動になってしまいます。地域の方と触れ合ういい機会なのに残念です。
- ・ 小泉6区 多数の参加があり、特に長寿会18名の参加者は喜んでいました。ラジオ体操第2は始めの頃はバラバラでしたが終わりの頃には揃って出来る様になりました。

## 「一人でも安心して暮らせる地域づくり」

企画副委員長 花田 博

日頃、根南地区社協の諸事業に住民のご支援ご協力をいただき感謝申し上げます。

今年度の事業は、福祉だより18号で7月～11月までをすでに、お知らせしました。

他の事業として「ネットワーク委員会」は、「小地域福祉ネットワーク活動の促進」を図るため、講演会や、地域の課題などについて、4回開催されました。

また、今年度から、各地域に直接出向く出前講座を始め、杉田区2ヶ所と、小泉1、2区の3ヶ所で実施しました。次年度も出前講座を通じ、地域と話し合いが出来るようにと考えています。

毎年1月、富士根南小1年生対象に「むかしのあそび教室」のお手伝いをしてきました。今年も「名人」80名の支援をいただき、子供達と共に楽しみました。

根南地区社協は、これからも、「一人でも安心して暮らせる地域づくり」を目指し、子供から高齢者まで、地域住民皆が参加できるよう各事業を進めてまいります。

来年度も、今年度同様ご協力をお願い申し上げます。

10年の  
歩み

2013年度

平成25年4月～平成26年3月

## 平成 25 年度に向けて

会長 川原 崎 仁

木々の葉や田んぼの稲も緑を増してまいりました。富士根南地区の皆さまには、ご清祥のこととお喜び申し上げます。

日頃は、地区社協の活動にご支援を賜り、お礼申し上げます。このたび、25年度総会において、役員、企画委員、福祉委員及び推進委員が計187名委嘱されました。「福祉のまちづくり」に取り組みます。昨年度、各地域の福祉活動に参加させて頂きました。夏休みラジオ体操・ふれあい訪問・4地域の出前講座・特に、3地域の見守りネットワーク活動に同行し感動しました。

- ①見守り対象者の居場所・趣味等を把握している。
- ②訪問記録は区長以下関係者に情報共有されている。
- ③同じ目線で話す、聞き上手等活動が進化していました。

今年度は、杉田5区ほか5地域の見守りネットワーク活動の支援、地域福祉を推進する地区社協の取り組みの理解を図る「出前地域ケア会議」の開催を順次計画します。

多くの地域でケア会議が推進出来ますようご協力をお願いします。



## ふれあい訪問について

ふれあい訪問部 部長 深 沢 安

住んでよかった みんなで支えあい

明るく安心して暮らせる地域をめざし

今年度も、ふれあい訪問を10月頃に計画しています。

各区ごと民生委員、区役員などで、小学生の手紙と地域からの慰問品を持って高齢者（82歳以上、80～81歳で一人住まいの人）宅や福祉課題を持つ要支援者宅を、訪問する予定です。

## 研修部の目指すところ

研修部 部長 長 谷 川 幸 雄

研修部では、講演会・研修会を開催し、役員・企画委員・推進委員が共に学び、識見を高め、根南社協の専門部事業が地域に根ざした活動を展開できる様取り組んでまいります。

今年度は5月10日の総会後に、郡山女子大学専任講師渡邊英勝氏を講師に迎え（しっかりつかむ、いきいき生きる）を演題に、福祉とは？について講演していただきました。

又、11月頃には、実践の場でより良く生かせるような研修会を予定しています。役員、理事、福祉協力員の方々の多数の参加をお願いいたします。

## 「出前地域ケア会議」実施報告

会長 川原 崎 仁

富士根南地区の皆さまには、日頃から、当地区の福祉活動に対し、ご尽力をいただきお礼申し上げます。今年度は、「出前地域ケア会議」を、6月28日の杉田5区からスタートし、7月上小泉区、8月大岩3区、10月小泉3区、10月31日杉田2区まで実施しました。

**目標**

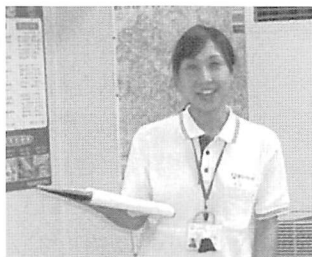
- (1)地区社協活動や見守りネットワーク活動の取り組みについて理解を図る。
- (2)要支援者に関する事例を基に地域支援の在り方を検討し、「地域の福祉力」を高める。
- (3)地域住民と福祉専門職による支援が連携する必要性を再認識する。

以上3項目を掲げ、5つの区に出向き約300名の住民が参加しました。

はじめは、「なんである人」を地域で支援するのか疑問視する声も多くありました。しかし、介護施設やケアマネジャー・地域型支援センターの関係者から、「社会からの孤立」「若年性認知症を抱える家族」「認知症高齢者の徘徊・事故」等の具体的事例を聞き、どの地域もグループ討議で活発に意見を出し合いました。



杉田2区・グループ発表



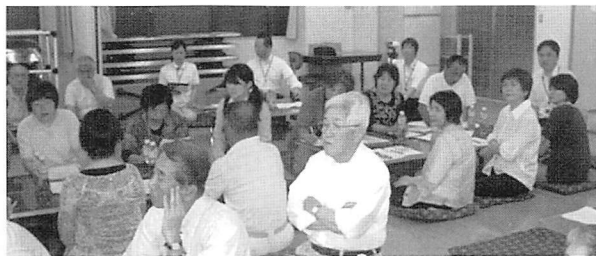
杉田5区・地域型支援センター職員による認知症理解の説明



上小泉区グループ討議



上小泉区のケア会議風景



杉田5区・地区社協の説明



小泉3区・区長挨拶

## ボランティア部

企画委員長 花田 博

ボランティア部は、現在活動が休止しています。ボランティアとして当協議会の活動に協力の意向をお持ちの方々には、誠に申し訳ありませんでした。

26年度には、活動が始められるようにと考えています。今年度中に懇談会を開催し、ボランティアの皆様と意見交換を行い、今後の活動のあり方について検討いたします。

皆様からのご意見、ご提案もお願いします。

## 根ねっ子サロン

### 子育てサロン

ママがほっとできる  
友達と出会う  
親子で遊べる

会場：富士根南公民館 2F

遊びに来てね！



10年の  
歩み

2014年度

平成26年4月～平成27年3月

## 平成 26 年度に向けて

会長 川原 崎 仁



富士根南地区の皆さまには、ご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃は、地区社協の活動にご支援を賜り、お礼申し上げます。

この度、26年度総会において、役員・企画委員・福祉委員及び推進委員を計201名委嘱しました。現在、富士根南地区も団塊の世代が65歳に達し、高齢化率が21%を超え「超高齢化社会」となりました。まだ、多くの高齢者は元気で、社会に貢献されています。しかし、年齢とともに病気になったり、身体の機能が低下したり、生活に不便を感じてきます。この様なときには、遠慮なさらずに「助けてください」と手を挙げてください。本人や家族の同意のもと、近隣の人が「声

かけ」「見守り」何か異変を感じたら専門家につなぐ「小地域福祉ネットワーク活動」を各区に展開しています。本年も、根南地区の福祉活動にご協力をお願いします。

26年度も「人にやさしい福祉のまちづくり」

「一人でも安心して暮らせる地域づくり」

を目指して、皆様の力を貸してください。



「寄り合い処」は、地域の人たちが、おしゃべりのできる場を通じて、仲間づくりや生きがいを進め、孤立の解消をしている場所です。参加費無料、誰でも参加できる楽しい処です。

# 平成 26 年度を振り返って

## 区が独自に企画した「ケア会議」を実施！

(杉田 5 区・小泉 3 区・小泉 5 区)

会長 川原 崎 仁

富士根南地区の皆さまには、ご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃は、地区社協の活動にご支援を賜り、お礼申し上げます。26 年度を終わるに当たり、各事業活動に関わりご奉仕を頂いた関係者の皆様に御礼申し上げます。

さて、当地域も高齢化が現実となりました。特に、団塊世代が 65 歳以上となり、高齢者の人口が 3 分の 1 を占める行政区が増加しています。これに伴い、認知症等を発症する人が増えています。いま、「出前地域ケア会議」では、ご近所の人達を交えて、病気の人や家族の苦しみや悔しさを聞き、地域で支援出来ないか話し合いをしています。

地区社協主導の「出前地域ケア会議」は、平成 26 年度の大岩 2 区・杉田 6 区をもちまして全地区（16 区）が一巡しました。

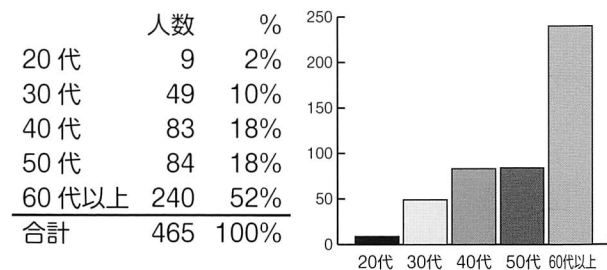
今年はさらに、区主体の「ケア会議」が 3 つの区に於いて実施され  
**地域住民による支援が「一步」進んできました。**

## アンケートの回収結果

意識調査部

(回答は 465 人) 依頼人数：582 人 回収数：470 人 回収率：89%

### ①あなたの年代は？ (回答人数 465)

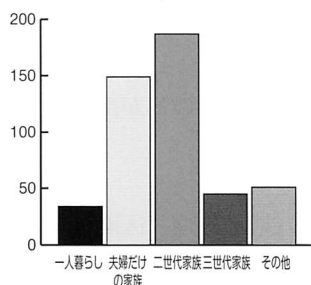


### ③自分が介護を受けることになった場合どこで受けたいですか？ (回答人数 464)

場所	人数	%
自宅	78	17%
自宅と介護施設	254	55%
介護施設	131	28%
合計	463	100%

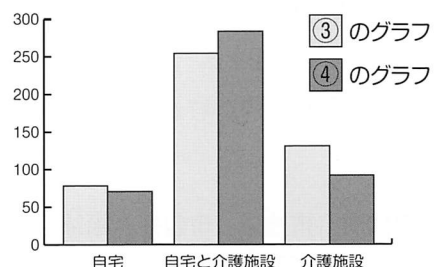
### ②あなたの現在の居住形態は？ (回答人数 465)

居住形態	人数	%
一人暮らし	34	7%
夫婦だけの家族	149	32%
二世世代家族	187	40%
三世世代家族	45	10%
その他(兄妹・4世代等)	51	11%
合計	463	100%



### ④家族を介護することになった場合どこで介護しますか？ (回答人数 464)

場所	人数	%
自宅	69	15%
自宅と介護施設	296	64%
介護施設	99	21%
合計	464	100%



10年の  
歩み

2015年度

平成27年4月～平成28年3月

## 平成27年度 事業計画決まる

### 企画委員長あいさつ

企画委員長 木ノ内高嘉（小泉6区）

地区社協では今年度から事業のスリム化と実情に合った事業化のため従来の事業を再編し三世代交流事業・研修事業・サポート事業・広報事業・意識調査事業・小地域福祉事業（ネットワーク委員会担当）の、6事業にしました。

各事業については従来事業の継続のみではなく、新しい発想を取り入れ、より多くの住民が参加でき、地区社協の存在感の向上を図れるような企画を考えていきたいと思っております。

『誰もが安心して暮らすことのできる地域づくり』の推進は住民一人ひとりのパワーの結集で実現します。計画されている各種行事にご参加いただきつつ、地区社協のご理解とご協力をお願い申し上げます。

### 地区社協事業について

地区社協の事業内容について簡単に紹介します。

**三世代交流：**ふれあいまつりを中心に地域全体の交流とつながりを深めつつ、要望の多い小規模のイベントなどを企画し、高齢者のみならず子供の活動の場の提供を進めていきます。

**研修事業：**根南地区住民、地区社協推進委員、ネットワーク委員等を対象に各種の研修会、学習会を開催し、福祉スキルの向上を図ります。

**意識調査：**今年は小学生を持つ保護者を対象にアンケートを実施し、子育て世代の課題や要望を把握し、次年度以降の各事業に反映させます。

**サポート事業：**ボランティアの方々を中心にボランティアとして何ができるのか、住民ニーズはどこにあるのかを把握し、両者をマッチングさせ住民同士の支え合いを強めていきます。

**広報事業：**根南地区の全世帯に配布する「根南福祉だより」を年3回発行し広報と地域福祉の啓発を行います。

**小地域福祉事業：**各区のネットワーク活動の推進とレベルアップを図るとともに市—市社協—地区社協の連携を密にして、地域の抱える課題に迅速な対応を図り、誰もが住みよい地域を目指します。

これらの事業展開には皆様のご支援とご協力が不可欠となります。イベントなどへの積極的な参加をお願いします。

### 富士根南地区社協では、身近な福祉・生活課題の理解・解決に向けて「地域ケア会議」を展開

#### I. 目的

高齢・認知症・障がい・生活困窮の状態になっても、住み慣れた地域で暮らし続けることが出来るか協議する。

#### II. 内容

①専門職（市社協、市包括、福祉相談富士根南、富士根南交番）と地域住民（地区社協、区関係者及び家族）が該当区で課題共有。

②地域で支援可能な方策と連携・協働し継続支援することを確認。





会長  
川原崎 仁 (上小泉区)

富士根南地区の皆さまには、ご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃は、富士根南地区社協の活動にご支援を賜りお礼申し上げます。この度、27 年度地区社協総会において全ての議案が承認されました。

今年には 2015 年、終戦から数えて 70 年になります。戦後ベビーブームで誕生した団塊の世代が高齢者となり「人口高齢化」が始まります。

10 年後の 2025 年には

- (1)要介護率が高くなる 75 歳以上の人口増加
- (2)介護保険料を負担する 40 歳以上の人口が減少
- (3)大都市は急速な高齢化で介護施設の大幅な不足
- (4)地方都市は介護の担い手の減少
- (5)医療介護保険料の大幅な上昇
- (6)認知症高齢者の更なる増加等、待ったなしの問題であります。

これらの背景から、厚労省は市町村が中心となって、2017 年までに、住民主体の生活支援体制づくり、地域の支え合い体制づくりの施策に取り組むよう全国に広報しています。当地区社協では、小泉・杉田・大岩の代表区長（地区社協副会長）が、地域連携会議（市・市社協・福祉相談センターと地区社協）に毎月参加しています。これは、市・市社協の動向や根南地区の福祉課題を相互に共有し、速やかに展開できるようにする為です。

今年度も根南地区社協の活動にご協力をお願いします。

## 富士宮市で地域見守りあんしん事業連携会議を開催

(目的)

見守り活動について

先進的な活動を理解したり、各団体の思いや活動内容を報告したりする中で役割を考え、顔の見える関係づくりをし、日常的な見守り活動で連携・協働できるようにする。

「地域見守りあんしん事業」は、富士根南地区社協が富士宮市に提案し実施している取り組みです。

市内新聞店と協定を締結したことを皮切りに、現在、金融機関、農協、郵便局、健康飲料販売、コンビニ等の事業所 15 社が、地域見守り活動に協力しています。

9 月 17 日の会議には、市内 14 の地区社協をはじめ、協力団体の関係者約 100 名が参加し、静岡市江崎新聞店の実践報告から学んだり、それぞれの活動状況について状況を共有しました。

## 三世代交流ふれあいまつりの様子

平成 27 年 10 月 25 日 (日) 開催



## 1. 組織構成

### (1) 地域

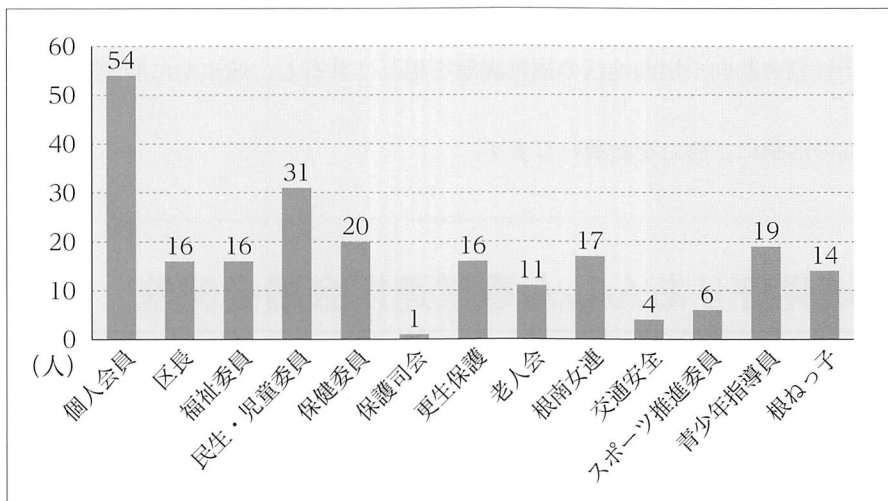
富士根南中学校区とし、行政区は、小泉1区、小泉2区、小泉3区、小泉4区、小泉5区、小泉6区、上小泉区、大岩1区、大岩2区、大岩3区、杉田1区、杉田2区、杉田3区、杉田4区、杉田5区、杉田6区の16区です。

### (2) 組織構成

地区社協の組織構成は、各種団体会員と個人会員が推進委員となり、平成28年度団体会員171名、個人会員54名の225人（重複を含む）です。

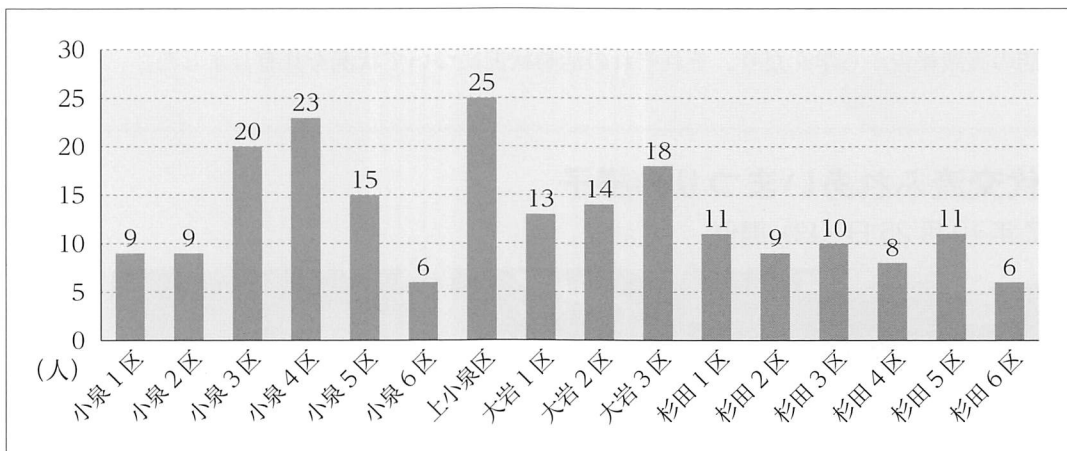
各種団体：区長会、福祉委員、民生・児童委員、保健委員、保護司会、更生保護女性会、老人会、根南女性連絡協議会、交通安全協会、スポーツ推進委員、青少年指導員、根ねっ子

個人会員：個人、ボランティア（まちづくりサポーターを含む）

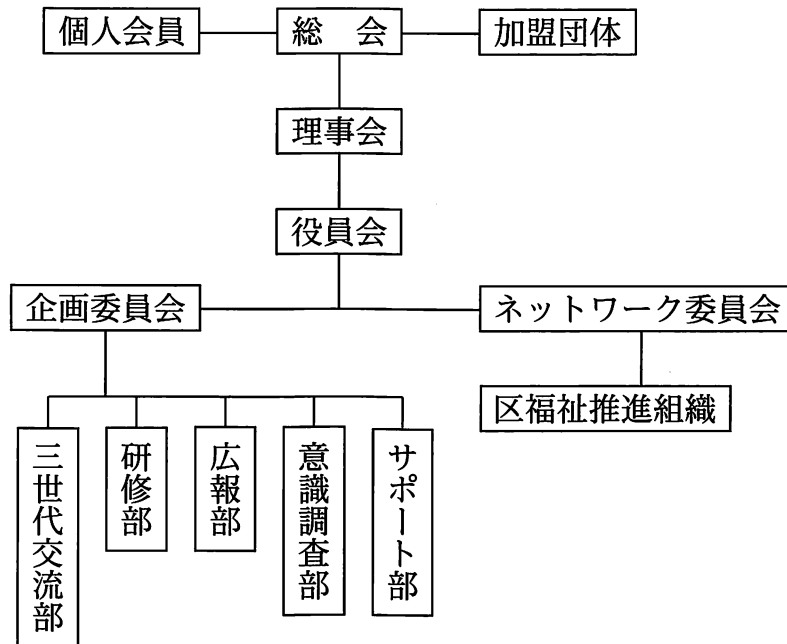


組織構成（推進委員）

### (3) 地区別推進委員



## 2. 組織図



## 3. 役員、委員会

### (1) 理事会

会 長	1名
副 会 長	4名
企画委員長	1名
企画副委員長	2名
代表理事	4名
理 事	16名
監 事	2名
事 務 局	4名
計	34名

### (2) 役員会

会 長	1名
副 会 長	4名
企画委員長	1名
企画副委員長	2名
代表理事	4名
事 務 局	4名
計	16名

### (3) 企画委員会

企画委員長	1名
企画副委員長	2名
三世代交流部正副部長	2名
研修部正副部長	2名
意識調査部正副部長	2名
サポート部正副部長	2名
広報部正副部長	2名
事 務 局	4名
計	17名

### (4) ネットワーク委員会

会 長	1名
副 会 長	4名
企画委員長	1名
企画副委員長	2名
代表理事	4名
福祉委員	16名
事 務 局	4名
計	32名

## 4. 事業部の変遷

### 平成 18 年度

三 世 代 交 流 事 業 部
福祉に関する意識調査事業部
広 報 誌 発 行 事 業 部
福 祉 講 座 事 業 部
安全環境づくり推進事業部

### 平成 20 年度

三 世 代 交 流 部
研 修 部 ( 新 設 )
福祉に関する意識調査事業部
広 報 部
福 祉 講 座 部
子どもとの交流部 (新設)

### 平成 22 年度

三 世 代 交 流 部
研 修 部
意 識 調 査 部
ボ ラ ン テ ィ ア 部 ( 新 設 )
広 報 部
福 祉 講 座 部
ラ ジ オ 体 操 部
ふ れ あ い 訪 問 部

### 平成 23 年度

三 世 代 交 流 部
研 修 部
意 識 調 査 部
ボ ラ ン テ ィ ア 部
広 報 部
小 地 域 福 祉 事 業 ( 新 設 )
福 祉 講 座 部
ラ ジ オ 体 操 部
ふ れ あ い 訪 問 部

### 平成 27 年度 (現状)

三 世 代 交 流 部
研 修 部
意 識 調 査 部
サ ポ ー ト 部
広 報 部
小 地 域 福 祉 事 業

#### 三世代交流部

創立当初からの事業部で、三世代交流ふれあいまつりをメインに事業を行う。

根南中体育館で、小中学生のステージ発表、紙芝居、茶道、軽スポーツなどを展開し、小中学生の参加が世代間ふれあいを推し進め、大勢の区民が参加するイベントとして定着している。

#### 研 修 部

創立時の福祉講座部と平成 20 年設置の研修部を事業内容が類似していることから、平成 27 年に両者を統一し研修部となった。地区住民を対象とした講演会、地区社協推進委員を対象とした講習会、研修会、学習会等を企画、実施している。

#### 意識調査部

創立当初からの事業部で、住民を対象に安心・安全な住み良いまちづくりのための意識調査を実施し、地区社協の認知度、住民の福祉課題の把握などを行い各事業に反映させている。

#### サポ-ト部

平成 22 年に新設されたボランティア部は、ボランティア希望の住民と市社協のまちづくりサポ-ター養成講座の修了者で組織された。平成 27 年に名称をサポ-ト部に変更する。

活動は、根南小 1 年生の「むかしの遊び」教室へのボランティア派遣と「地域を知ろう」をテーマに地域の史跡巡りを実施している。今後、福祉課題を抱える住民へのボランティア活動を推進し地域の支え合いを目指している。

#### 広 報 部

当初からの事業部で根南福祉だよりの発行をメインに、地区社協の広報や地域福祉に関する啓蒙を行うとともに地区社協の活動を次代に伝える役目を担う。現在年 3 回発行しており、平成 28 年度末で第 30・31 号の発行となる。平成 25 年 7 月の第 20 号からはカラー印刷に移行し、カラフルで読みやすい紙面になったと好評を得ている。

#### 小地域福祉事業

平成 23 年度から設置された事業で、各区の福祉委員からなるネットワーク委員会が推進母体となり、「小地域ネットワーク活動」を全区に展開し、見守り活動を行っている。



## これからの富士根南地区社協活動の充実に向けて

富士宮市社会福祉協議会

主幹兼地域ささえあい係長 小野田 正樹

富士根南地区社協は、これまで多くの役員の皆様やボランティアの皆様の主体的な参加と力強いご支援により、地道な実践の積み重ねをしてきました。特に平成18年の地区社協設立、平成22年の小地域見守りネットワーク実施の際には、当時の区長の皆様、民生・児童委員の皆様、女性連絡協議会の皆様をはじめ多くの方々にご尽力をいただきました。改めて心より御礼申し上げます。

今後も富士根南地区社協が、人にやさしい福祉のまちづくりの基盤として、ふれあい、学びあい、支えあう実践を積み重ね、地域の福祉力が高められるよう、富士宮市社協も微力ながら支援を続けてまいります。

なお、これからの活動充実に向けた提案を以下のとおりさせていただきます。

### 1 助けられ教育の推進

地域には、悩みや不安を抱え、問題が悪化しても、近くに頼れる人がおらず、誰にも相談しないまま、「助けて」のひと言が言えない人がいます。見守りネットワーク活動、地域寄り合い処、子育てサロン等の活動を通じて、気軽に「助けて」のひと言が言える関係づくりを進めて行くことが必要です。

### 2 子どもや若い世代の支援

かつて子どもたちの遊び場だった田んぼや空き地のない今日、子どもたちは整備された公園やグラウンドが遊び場です。しかし、野球やサッカーは禁止。不審者が出没するといったことから、公園やグラウンドで子どもたちが笑顔で遊ぶ姿はほとんど見られません。また、子ども会、夏祭り、運動会、クリスマス会なども、なくなりつつあります。これからの地域を担う子どもや若者の参加できる活動を創っていくことが必要です。

### 3 小地域見守りネットワーク活動の充実

各区において実施されている小地域見守りネットワーク活動は、当初は、一人暮らし高齢者の見守り活動と位置づけられ始まったところが殆どでした。しかし、活動を進めていく中で、障がいのある家族のいる世帯、病気がちな人、母子父子世帯、日中高齢者のみの世帯、生活困難な世帯等、気がかりな人が地域に多く存在し、対象範囲も広がり、地域でやさしく温かく見守る実践が少しずつ広がりました。今後は各区の見守り活動に関する情報共有の場、福祉に関する学習の場が必要であり、又、専門職や見守りあんしん事業に取り組む事業所との連携も必要です。

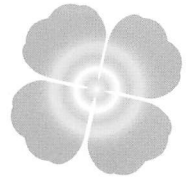
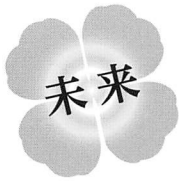
### 4 町内会長、班長を対象にした出前福祉講座の開催

現在、地域福祉の基礎知識を学ぶ「福祉のまちづくりサポーター養成講座」を受講した各区の福祉委員、福祉協力員を中心に見守り活動が取り組まれています。今後は、見守り対象に日常近い存在である町内会長さんや班長さんにも、地域福祉を学ぶ機会に参加いただく機会（出前福祉講座）を実施していくことが必要です。

### 5 多分野、多職種との連携・協働

地域で支援を必要とする人の把握とその対応方を検討し、住民の皆様にとって必要な人材、活動、場所を創っていく際に、活動の趣旨に賛同いただける人、団体、事業所等に参画していただけるよう働きかけをしていくことが必要です。特に市と協定を結んでいる事業所への働きかけは必要です。

この他にも取り組んでいく上での課題はたくさんありますが、基本は住民どうしの支えあい活動を地域に創っていくことです。生きる意欲を失っている人たちに寄り添い、粘り強く関わり続けると、必ず信頼関係は芽生えます。そして、見守る人たちの幸せを、自分自身の喜びに変える活動が私たちの進める地域福祉です。今後も皆様の力強いご協力をお願いいたします。



# 10年先を見すえて

会長 川原崎 仁

富士根南地区社協のこれから10年先を見すえた方向性について、静岡福祉大学 渡辺英勝先生と富士宮市社協 地域ささえあい係と今後必要な取り組みについて意見を交換しました。

- (1) 地域福祉への意識向上を図るため、普遍的に市民指導委員（地域福祉アドバイザー）の育成
- (2) 行政区の役割細分化、区長→町内会長→班長（防災・防犯・福祉の連携）
- (3) 行政区ごとに福祉課題をボトムアップし、地域福祉の取り組みを平準化
- (4) 地区社協の役割はマネジメント（分析・提言・個別支援）

以上のことについて整理すると、富士根南地区社協の重点的なテーマは、①全16区福祉部の支援、②人材育成、③行政との連携の3項目となり、今後の事業計画に反映するよう提案します。

## 1. 富士根南地区全16区福祉部（推進組織）の支援

- ・ネットワーク会議で見守りネットワークの取り組みを評価
- ・各区が地域ケア会議を主体的に調整し実施
- ・各区が見守りネットワーク活動見学会を実施

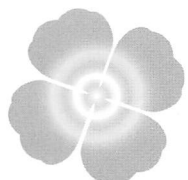
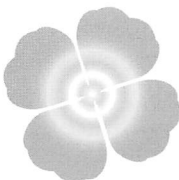
## 2. 地域福祉の人材育成

- ・全区に寄り合い処(サロン)を立ち上げ
- ・子育てサロンを3ヶ所（小泉・大岩・杉田）以上の立ち上げ
- ・見守りネットワーク活動で把握された生活課題(買い物、ゴミ出し、草刈り等)の支援
- ・推進委員（理事・役員・推進委員）を対象に、地域福祉、地区社協活動等についての研修会を実施
- ・介護予防（健康づくり）・認知症予防（認知症サポーター養成）を推進

## 3. 行政への提案・連携

- ・ネットワーク会議での提案（提言）に迅速に対応
- ・地域見守りあんしん事業の拡充（各事業所も参加した連携会議を開催）
- ・連携会議（うららの会）で地域の福祉課題を検討し迅速に対応

団塊の世代が75歳になる2025年に向けて、住み慣れた富士根南地区で、住民どうしが助けたり、助けられたりする中で、いきいきと暮らしあえる地域づくりを目指しましょう。



# 編 集 後 記

富士根南地区社会福祉協議会10周年記念誌の発刊に当たり、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

10周年記念誌を編集する中で、発足当初から現在に至るまでを振り返り、これまでの運営に当たった先達の熱い想いに触れる事が出来ました。諸先輩のご努力を経て、現在の姿があるという歴史の重さを感じております。

より多くの皆様方にこの記念誌をご一読いただきまして、今後、根南地区におきましてもますます少子高齢化が進み、一人世帯の高齢者等が増加することが想定されますので、根南地区の社会福祉活動へのご理解を深めていただければ幸いです。

結びにあたり、本記念誌にご祝辞をいただきました皆様をはじめ、発刊作業にご協力を頂きました方々に対しまして、本紙面をお借りして心より厚く感謝を申し上げます。

富士根南地区社会福祉協議会 「10周年記念誌」編集委員一同

川原崎 仁 木ノ内 高嘉 齋藤 富夫  
佐久間千津子 渡邊 恭二郎



裏表紙のイラストや本文中の「かるた」は、「静岡福祉文化を考える会」代表平田厚先生が長年取り組んできた地域づくりを、若者の視点で提案した46枚の「読み札」に取りまとめ、「絵札」は福祉教育に理解のある漫画家の法月理栄さんが作画したものです。平田先生から快く許可をいただきましたので、掲載させていただきました。漫画家の法月理栄さんは静岡県のマスコットキャラクター「ふじっぴー」の作者でもあります。

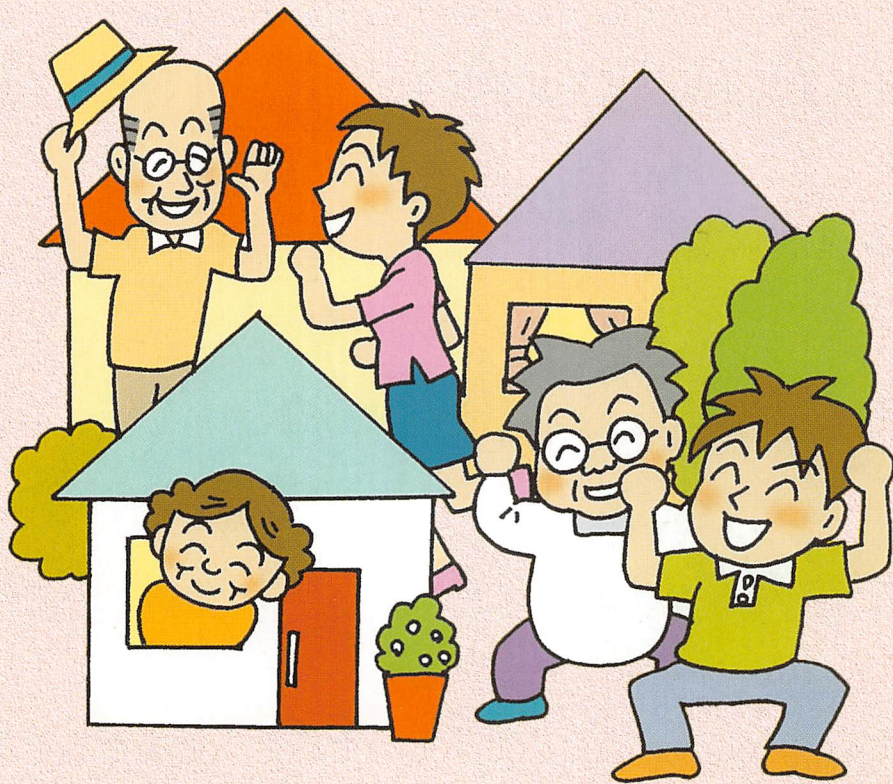
富士根南地区社会福祉協議会 10周年記念誌 ふれ愛

---

発行日	平成29年3月25日
発行者	富士根南地区社会福祉協議会
編集	富士根南地区社会福祉協議会 「10周年記念誌」編集委員一同
印刷	フジ印刷有限会社

---

地域でできることは地域でやろう



何もやらなければ何も変わらない